



と き と り
桃 花 鳥

【教育目標】
磨き合おう
助け合おう
勇気をもとう

回 覧

ホームページ <http://niibo-es.sado.ed.jp>
E-mail niibo-es@sado.ed.jp

第462号
令和5年11月2日

ヤバい、エグい、ウザい、自分の感情を表現する力は？

校長 佐藤 伸也

男子A「あのゲームくそヤバかったしょ」

男子B「ああエグかった」

男子C「つかおまえ*台パンしすぎ」

A「あれまじヤバかったよね 店員*ガン見だから」

B「くそウザ」

C「つかおまえがウザ」

B「は？死ねよ」

C「おまえが死ね」



*台パン…ゲーム機の台を興奮して叩くこと
*ガン見…まじまじと見ること

この会話は、『ルポ 誰が国語力を殺すのか』（著者：石井光太）という本に紹介されていたものです。ある中学校の3人の男子が、ゲームセンターで話題のゲームをして遊んだ時のことを思い出している会話だそうです。「ヤバい、エグい、ウザい」といった抽象的な言葉で進められ、語彙が少ないことがこの会話の特徴です。これは特別な事例ではなく、どうやら多くの若者が、このような会話をしているらしいのですが、この会話を補填しながら、分かりやすく直してみましょう。

「くそヤバかったしょ」→「すごく盛り上がったよね」

「エグかった」→「難易度の高いゲームだったけど、すごく楽しかったよ」

ここで問題なのが、Bの「くそウザ」です。「ウザい」は「うざったい」の省略形らしいので「うっとうしい、煩わしい」と解釈できるのですが、主語がないため、ガン見していた店員のことを言っているのか、台パンしすぎと言ったCに対して言っているのかが不明なのです。しかし、Cは自分のことを言われたと思い、「つかおまえがウザ」とBに言い返しています。それに対してBは「は？」と反応していることから、おそらくガン見していた店員のことを言ったのに、なぜかCが攻撃してきたので「は？死ねよ」と言い返したと推測されます。さらにCは…

主語を勝手に解釈し、誤解を生じさせ、関係をこじらせては、友達をつくることはできません。何がどのように「ヤバい、エグい、ウザい」と感じたのか、自分の感情や感覚、そして考えを言葉で表現する力は、コミュニケーションに大切な力です。その力がなければ、他者に伝えることも、分かってもらえないこともできないのです。

文科省から問題行動・不登校調査の概要が10月に公表されました。新聞やニュース等でも報道されましたので、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、不登校の児童生徒が過去最多、いじめの認知件数も過去最多、暴力行為は新潟県が全国最多となりました。さまざまな要因が考えられていますが、私は、その背景の1つに、自分の感情や感覚、そして考えを言葉で表現する力が劣化しているのではないかと危惧しています。トラブルが発生した時、担任は事情や事実を把握するために子どもたちに話を聞きます。登校を渋ることが続いたり、何度も繰り返したりすることがあると担任はその子に話を聞きます。しかし、うまく説明することができないことが多いのです。解決策をいくつか提案しても、「ちがう」「そういうわけじゃない」と答えます。ではどうすればいい？どうしてほしい？と尋ねても、「さあ」といった具合に、おそらく本人も自分の感情や考えをうまく伝えられないでいるのだと思います。きっと本人も苦しみがいているのです。

人は、これまでに出会った言葉で人格が形成されていくと考えています。自分の感情を表すボキャブラリーを増やす、そのような視点も大切にしたい学校経営を心掛けていきたいと思っています。